
壁を掻く音

村雲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

壁を掻く音

【Nコード】

N40380

【作者名】

村雲

【あらすじ】

昨日言いたかった何か。

朝の匂いを忘れる頃

腕の取れかけた兵隊のおもちゃを手に

爪を嚙んでる少年の

言葉はテレビの音に掻き消される

テーブルには温もりがあつた

その温もりは紙切れだった

その温もりでは何でも買えた

その温もりはすぐになくなった

沈黙の四角形にただひとり

あらゆる雑音を揺りかごにするけれど

胸から鳴る定期的な音が

鼓膜を劈いて瞼を持ち上げる

テーブルにはおもちゃがあった

そのおもちゃは鋭く尖っていた

そのおもちゃでは何でも刻めた

そのおもちゃを両手で握った

沈黙の四角形にただひとり

駆られる衝動は意味もなく

朝の匂いを忘れる頃

鈍く汚れたナイフを手に

爪を噛んでる少年の

言葉はアナウンサーの声に掻き消される

ねえ、聞こえる？

ねえ、聞こえた？

呟く声は定期的に聞こえた

耳を塞いでみるけれど

今だってほらなんか言ってる

聞こえる？

聞こえた？

わかる

わからない

沈黙の四角形にただひとり

言葉なんて必要なかった

そうさ、

返事なんてしなくても

ボロボロになった人差し指が

理解を促す頃には

滴る赤に高揚を隠せずにいる事なんて

きつともうなくなってる

朝がくる

瞼がおちる

今日言いたかった何かが

脈打つ音に掻き消される

別に本当は、

どうだっていい事なのだろうけれど。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4038o/>

壁を掻く音

2010年10月19日21時50分発行